シオン通信

大宮シオン･ルーテル教会 礼拝説教集

2010年5月　第24号

日本ルーテル教団

大宮シオン・ルーテル教会

〒331-0814

さいたま市北区東大成町 1-229

phone/fax：048-663-0215

URLhttp://omiya.church.ne.jp

Email :himei-y@oregano.ocn.ne.jp

大宮シオン･ルーテル教会

梁　熙 梅(やん･ひめ)

ご無沙汰しております＾＾；

昨年の春、通信23号を４月号として出してから、一年が経ちました。私の方の勝手な理由で発行しませんでしたこと、申し訳ありません。つまらないものだったはずなのに、全国の方々から「どうして出さないの？」「忙しいの？」と声をかけていただき、再発行に至る力となりました。これからもご指摘の言葉をも含めて、お声を惜しまずにかけていただければと思います。

大宮教会は、去る一年間の中でもいろいろなことがありました。吉永妙子姉が昨年の６月み許へ召され、愛する吉永正義先生と再会なさっておられることでしょう。１２月のクリスマス礼拝では、大和カルバリーチャペルから鈴木陽恵姉が転籍して来られ、長男悠太くん（１歳）といっしょに仲間に加わりました。今年の３月３１日、榎本民さんがかわいい女の子を出産しました。名前は美悠(みゆう)ちゃんです。美悠ちゃんは今週礼拝デビューを果たしました。そして間もなく田口家の長女和代ちゃんが出産を間近に迎えています。また、唐澤ミカさんがフィンランドで出産を間近に迎えています。

教会の新しい活動として昨年４月より始まったハングルクラスは、今１２名の生徒で学んでいます。学びにいらっしゃるみなさんがとても熱心で、月二回のしか学んでいないのに、もう少し経ったら私より韓国語を話すようになるのではないかと心配です。それに、韓国のドラマや芸能界のことなど、クラスの話題が豊富で楽しいです。第二週の学びは韓国の食べ物をいっしょに造って食べます。今のところ大満足！？＾＾

第二･第四木曜日の夜には、新しい視点から聖書を読み直すために、今山口里子著「虹は私たちの間に」を読んでいます。とても刺激的な本ですのでお勧めです。

個人的には息子が中学生になり、背丈も私を越えて段々と見下ろされるようになりました。悔しいやら嬉しいやらの気持ちにプラスして、洗濯やお弁当造りの仕事も増え、さらに忙しくなりました。部活を吹奏楽を選んだ息子は吹奏楽部がとても気に入りで、それに学食が評判の学校ですから、大満足の中学生生活をスタートしています。

みなさんとの再会を心から喜びつつ、つまらないものをお読みいただけることに感謝して、誠実に送らせていただきます。

聖書のみことば
５月９日　聖霊降臨後第５主日/家族の主日特別礼拝

ヨハネによる福音書 14 章 23～29 節

23 イエスはこう答えて言われた。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。24 わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。25 わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。26 しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。27 わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。28 『わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る』と言ったのをあなたがたは聞いた。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。父はわたしよりも偉大な方だからである。29 事が起こったときに、あなたがたが信じるようにと、今、その事の起こる前に話しておく。

説　教

私の名がいのちの書に

「心配」という言葉は、私たちの生の中から一瞬も離れずに、生活を振り回すものです。辞書で「心配」という言葉を捜してみました。「心にかけて思い煩うこと」「不安に思うこと」「気がかり」「憂え」と書かれていました。例文として、「心配で眠れない」とか「心配をかける」とか「雨が心配だ」と出ていました。

しかし私たち人間には、どんなに大事なことであっても、その人が担える心配の負担は限りがあります。まだ来ていないことについて不安を抱き、心

配して、眠れない夜を過ごししまうならば、それは、ただの心配に留まらず、病気へとつながることもあります。それによって、今度は心にとめて考えなければならないことに、気配りができなくなっていきます。

最近、癌という病気が風邪を引く比率よりも高い比率で私たちを悩ませています。そうですから、自分も癌になったらどうしようと、心配するときがあります。今は少し静かになりましたが、新型インフルエンザが流行っていた時期には、子どもがかかったらどうしようと心配してしまう。このようなことは異常なことではないですが、しすぎると心配の奴隷になりかねません。

最近、私の左の耳がおかしくて、数か月前から違和感がありました。机の前に座っていると、耳鳴りがなる時もあって不安でした。しかし病院に行くことは考えないで、もしかしたらいきなり聞こえなくなるかもしれない、もしからしたら説教もできないかもしれないと、いろいろと心配ばかりしていました。

先週は他の件で病院の予約が入っていたので、行ったついでに医者に聞きましたら、耳鼻科にかかった方がいいよ！とあっさり言われて、その場でかかりました。いろいろ検査をしたけれど、異常はなく、ストレスや疲れから来るものだろうと言われて、薬をもらって帰りました。ほっとしました。こんなことだと思うのですね。やるべきことをやっていればいいことを、心配ばかりしている。そして、もしかしたら自分は大きな病気なのかもしれないという、過大妄想症になっていく。つまり、心配の奴隷になって、心を不安で満たしていくのです。

これは適当なたとえなのかどうか分かりませんが、韓国にこんな話があります。

三年峠伝説という話ですが、その峠を越えるときに転んだら三年しか生きられない、という話が伝えられていました。人たちはその峠を越える度に、転ばないように、転ばないようにして、とても気をつけて通りました。おかしなことは、意識していると転んじゃうのですね。すると、そこで転んだ人は、自分は三年しか生きられないと決め付けて、生きることをそこで諦めてしまうのです。

ところが、ある人が人生に疲れて、死ぬつもりでその峠にやってきました。そしてわざと転びました。しかし、三年が経っても死ぬどころか、三年後には死ぬのだから、三年間だけは思い切って生きようと生きていたら、ますます元気になって長く生きたと言うのです。

「転んだら三年しか生きられない！」この話を信じていた人たちは、

転んでしまった瞬間から、恐れと不安に取り囲まれて、もう少しで死ぬんだ、自分はもう駄目なんだと諦めて、三年も生きられずに死んでいったという話です。

つまり、人の生き方というのは、いかに生きるかによって右へも、左へも転ぶということでしょう。死ぬつもりで思い切り生きていれば生き生きと生きられる。けれど、もう駄目だと、死ぬ前から人生を諦めて、不安や恐怖の中で時を過ごす人は、健康な人でも病気になって早死にするということです。

イエスさまは、お弟子さんたちにたくさんのお話をなさいましたが、その中にこのような話があります。

「25 自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思い悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。26 空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。27 あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。28 なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。…33何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。34 だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」（マタイ６：25～28、33～34）

「明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」とおっしゃるのです。

事実、私たちが日々のことを、心配するからといって、自分の力で解決できることはそれほど多くありません。いいえ、ほとんどないかもしれません。自分の力で解決できるなら、私たちの人生は順風満帆に進むと思うのです。しかし、自分の力ではできないから、心配の日々が絶えないのではないでしょうか。

そういう風に、心配の多い人が今ここに集まっています。みなさんは、心配しすぎて、不安で心がいっぱいにされて自分の力の足りなさを感じるとき、自分の力が弱いと思う時、どんな対策方法を打ち出しますか。最後の最後に使うため隠しておくカードは、どんなものでしょうか。

私は、天を仰ぎます。そして、宇宙万物の持ち主でおられる神さまに手紙を書きます。「神さま！」と呼びかけることから始まって、長々と手紙を読みます。天を仰いで、神さまにお祈りを

するのです。時には言葉にならなくて、ただただ泣く時もありますが、だいたいはちゃんと手紙を伝えます。

　すると、その度に返事がきます。しかし、いつも同じような返事がきます。物事をすっきり解決してくれるような返事ではなくて、いつも同じ返事でも、解決できてなくてもいいお返事を返してくれるのです。「そうか…辛いのか…けれど、今あなたが受けている苦しみは、あなたを私から切り離すことはできない。わたしのいのちの書の帳簿からあなたの名前を消すようなことは、どんな苦しみも、心配も、不安も、病気も、できない。わたしがあなたを渡さないから！」という返事が返ってくるのです。

　期待していた相手からこのような返事をもらうと、嬉しくなります。その時まで岩のように見えていた悩み事が、とても小さく見えて、どうしてこんなことでそんなに悩んでいたのかと、その時間がもったいないというような思いにさえなります。

　もう一つ皆さんに質問がありますが、それでは、神さまに手紙を出す頻度が少ない人が幸せな人でしょうか、それとも多い人が幸せな人でしょうか。神さまに手紙を出す頻度が多いということは、抱えている心配事が多いということです。貧しさや病、あらゆる試練や苦しみ、辛い日々の中にある人は、神さまに手紙を出さずにはいられないからです。しかしその人は、その度に、神さまから力をいただいて、「愛しているから離さない、どんなものにもあなたをぜったいに手渡さない」と、はっきりと、強い力で包んでくださる愛の告白をいただくのですから、多く手紙を出す人の方が幸せな人ではないでしょか。

　しかし、普段の私は、どうしても、神さまにあまり手紙を出さずに生きられる方法を選びとろうとするのです。その場その場での楽しみを優先して、この世のものをどれだけ持っているかに生きる価値を置こうとして、正義のために貧しくなることなど考えもしない。問題が起きると、自分の力で何とかして解決して、弱いところを人に見せないようにするものですから、できるだけ神さまには手紙を出さないようになってしまうのです。

　先ほど拝読していただきました聖書の、ヨハネによる福音書で、イエスさまは弟子たちに、「心を騒がせるな、おびえるな」と念を押して願っておられます。この話をしておられる状況は、十字架の上で死なれて復活なさったイエスさまが、弟子たちを離れて、天に昇る前の状況であります。弟子たちから考えますと、死んでしまったと思い、がっかりして、悲しくて、絶望の中に

いたとき、イエスさまが復活してくださったために、今はとてもうれしい、喜んでいる。なのに、その時間もつかの間で、またどこかへ行ってしまうのですかと、心が不安に陥る、これからが心配になる、そんな状況であります。

けれどイエスさまは、「心を騒がせるな、おびえるな」と言われる。つまり、『わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る』と言ったではないか。私を愛するなら、私が話したこの言葉を信じなさい」と言うのです。

つまりこのことは、お母さんが出かけるときに、子どもが一人で留守番をすることになる。その時、一人で留守番をするのは少し心細いけど、お母さんが必ず帰ってくることを信じるから、子どもは一人で留守番ができるのです。同じことであります。そして、出かけている間お母さんはそこにいないけれど、子どもには、お母さんがいることを信じるから帰ってくることを信じられるのです。

キリスト教の神はこのような神ですね。見えないけれど、おられる。それが信じられる信仰がキリスト教の信仰であります。実際目に見えるものを確信して信じることを、逆にキリスト教では拒みますし、排除していくように教えます。

今日、イエスさまは弟子たちを離れようとして、心構えをさせておられます。しかし大事なことは、そこには一つの大きな絆がありました。イエスさまが言われる「心を騒がせるな、おびえるな」と言われることには、その前提があったのです。つまり、「あなたが私を愛しているならば…」という前提であります。これは信じることの条件なのです。愛する、または愛されているという絆なしに相手を信じることはできません。子どもは、自分がお母さんに愛されているという確信があるから、お母さんが帰ってくることが信じられるわけです。お母さんに愛されている確信がなければ、子どもは一人で留守番をすることになっても、不安の中で、心配の中で、本当に帰ってくるのかな？帰ってこないかもしれない！と疑いの中で留守番をしていることになります。

神さまは、私たちが神さまを愛する前に、私たちを見出して、先に愛してくださいました。何かができるからではない。何かができなくて不器用な者だけど、愛される資格などちっともない私たちを、み心に適った者にして、愛しておられるのです。それは、神さまの永遠のいのちの書に、私たちの名前が既に記されていること、その命の書から私たちの名前が、どんなことによっても消えることはないようにして、

私たちを守ってくださる、という約束なのです。つまり、神さまは、私たちが信じられない日々を過ごす時も、不安で、心配で、自分自身を保てないそんな時も、私たちを信じて、私たちが神さまのところに帰ってくることを待っていてくださる方であるということ。

この方が、私たちの家庭の真中にいて、私たちの家族のことを祈っておられます。私の人生の歩みの只中を共に歩んでおられます。目には見えないけれど、です。

この世のものを多く持っていればいるほど、心配事は耐えません。それが私たちの心を騒がせて、脅かせるからです。しかし、それらからくるあらゆる心配ことが、この方の大きな愛のゆえに小さくなっていくということを信じて、これからのことをこの方に委ねるものでありたいです。

祈ります。

私たちのことを大切に包んでくださり、愛してくださる神さま。あなたが私たちを愛してくださるその愛の故に、私たちは生きる希望を抱くのです。今、ここであなたの愛のメッセージを聞いているひとり一人が、これからの歩みの中であなたのその愛を見出すものでありますように。子どもたちの心と体の成長があなたによって支えられ、守られますように。どうか、あなたの愛の力を生きる力として成長することができるように、導いてください。

今も不安や心配の中で過ごしている方がいらっしゃるならば、私たちの仲間がもしもそのような時間の中におられるならば、どうか心から不安や心配が取り除かれて、あなたの愛がその心を満たしますように。み言葉より与えられる希望を希望として生きることができますように支えてください。私たちの主イエス·キリストのみ名によって祈ります。アーメン。

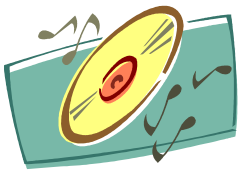
６月のイベント案内

６月 13 日(日)は伝道主日として守ります。
礼拝後、一階のホールにてチャーチコンサートを開きます。
第３回目になりますが、教会の仲間たちで構成されている
素晴らしい演奏部隊が演奏をします。

大宮教会には、
神さまからタラントをいただいている方が大勢いらっしゃいますが、
特に音楽のタラントをいただいている方が多くおられて、今回も期待
しています。

どうぞ、大宮教会の近くまで来られるご用事がありましたら、
ご一緒に礼拝し、コンサートを楽しみましょう。

なお、この日は礼拝の中で榎本美悠ちゃんが主の洗礼に預かる予定です。
みんなで、神さまの祝福を祈りましょう。



【2010 年5～6 月礼拝予定】

【主日礼拝】毎週日曜日 朝 10 時 30 分～

5 月 23 日(日)　聖霊降臨祭 聖　書：創世記 11:1～9、使徒言行録 2:1～21 、ヨハネ 16:4b～11 主　題：私の人生に寄り添う方
5 月 30 日(日)　三位一体主日礼拝 聖　書：イザヤ 6:1～8、ローマ 8:1～13、ヨハネ 16：12～15 主　題：　聖なる者とされて
6 月 6 日(日)　聖霊降臨後第２主日礼拝 聖　書：エレミヤ 7:1～7、１コリ 15:12～20、ルカ 6:37～49 主　題：　平和を作り上げる者
6 月 13 日(日)　聖霊降臨後第３主日礼拝 聖　書：列王記上 8:41-43 、ガラテヤ 1:1-10 、ルカ 7:1-10 主　題：　人の言葉によってではなく、神の言葉によって
6月 20 日(日)　聖霊降臨後第４主日礼拝 聖　書：列王記上 17:17-24、ガラテヤ 1:11-24、ルカ 7:11-17 主　題：　人間は滅ぼすが神は生かす
6月 27 日(日)　聖霊降臨後第５主日礼拝 聖　書：サムエル下 11:26-1 2:13、ガラテヤ 2:11-21、ルカ 7:36-50 主　題：　分け隔てることなく愛される方

（説教主題は今のところの予定です。変更になる場合もあります。）

【その他の集会】

- 第一・第三水曜日　午前 11 時より　ヨハネによる福音書の学び
- 第二・第四水曜日　午前１１時より　ハングルクラス。
- 第二・第四木曜日　午後７時より　新しい視点による聖書の学び
  「虹は私たちの間に」山口里子著購読。
- 第二・第四水曜日　午前１１時よりハングルクラス
- その他、随時(希望にあわせて)キリスト教入門講座・面談など行なわれています。

大宮シオン･ルーテル教会

〒 331-0814 さいたま市北区東大成町 1-229

Tel/Fax　048-663-0215

URL：http://omiya.church.ne.jp

Email：himei-y@oregano.ocn.ne.jp